

科目名	建築計画Ⅳ				
科目名(英)	Architectural Planning Ⅳ				
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	赤星 亜美
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	オーダー家具制作会社でインテリアコーディネーターとして勤務
対象学科・学年	インテリアデザイン科 2年				
授業概要	社会的状況により建築計画も大きく変わってきます。あらゆる施設の条件的な成り立ちを理解することは、新しい形状を見つけ出すためには重要な資料となる。この授業では、施設計画の裏付けを理解し、自ら設計提案できるための計画を行う				
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他
	○	○			
	目標				
	○	○			
	○	○			
	○	○			
テキスト・教材 参考図書	テキスト:初学者の建築講座 建築計画(改訂版) 参考図書:カラー版図説 建築の歴史 西洋・日本・近代、コンパクト建築設計資料集成、ホテル・旅館 市ヶ谷出版、「新建築」等の建築雑誌 その他				
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示
	1	ガイダンス 6-1規模計画と経済効率			予習・復習することを心がける。
	2	6-2事務所ビル 事務所ビルの変遷			予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を実際に見学することを推奨する。
	3	6-2事務所ビル 事務所ビルの計画			予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を実際に見学することを推奨する。
	4	6-2事務所ビル 各室計画			予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を実際に見学することを推奨する。
	5	6-3劇場・音楽ホールの変遷			前回までの授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと。
	6	6-3劇場・音楽ホールの計画			予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を実際に見学することを推奨する。
	7	6-3劇場・音楽ホール 客席・舞台の計画			予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を実際に見学することを推奨する。
	8	6-4百貨店・スーパーマーケットの変遷			前回までの授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと。
	9	6-4百貨店・スーパーマーケット 大規模小売店舗の計画			予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を実際に見学することを推奨する。
	10	6-4百貨店・スーパーマーケット 売り場の計画・駐車場			予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を実際に見学することを推奨する。
	11	6-5 宿泊施設 定義・種類・分類・機能・基本条件			前回までの授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと。
	12	6-5 宿泊施設 構成要素・部門・所要室・規模			予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を実際に見学することを推奨する。
	13	6-5 宿泊施設 ゾーニング・動線計画宿泊施設			予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を実際に見学することを推奨する。
	14	6-5 宿泊施設 6-6 駐車場			予習・復習することを心がけ、学んだ分野の建築を実際に見学することを推奨する。
15	総括 I			授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	

評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				80%
	小テスト	○	○				10%
	宿題・レポート	○	○				10%
履修上の注意	上記評価及び出席率60%が単位付与条件とする。						

科目名	建築環境工学						
科目名(英)	Architectural Environmental Engineering						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	竹田 真志		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	インテリアデザイン科 2年						
授業概要	望ましい室内環境を形成するための物理的・生理的・心理的な知見を整理・統合し、建築計画に役立て、二級建築試験における学科Ⅱ(環境工学)の問題に対応出来るようになる						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				環境工学の要素(日射・光・色彩・空気・湿気・温熱・音)に関連する各図を読み解くことができる	
	○	○				環境工学の要素(日射・光・色彩・空気・湿気・温熱・音)の特徴と留意事項について説明できる	
	○	○				環境工学の要素(日射・光・色彩・空気・湿気・温熱・音)に関して計算式を用いて必要な数値を算出することができる	
	○	○				環境工学の要素(日射・光・色彩・空気・湿気・温熱・音)の課題点と対策について述べるることができる	
テキスト・教材 参考図書	建築環境工学 市ヶ谷出版 オリジナルプリント						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	建築環境工学の役割					
	2	太陽位置と日照・日影の関係				教科書予習する	
	3	日影曲線・日影時間				教科書予習する	
	4	日射量・日射調節				教科書予習する	
	5	光環境・測光量・照度計算				教科書予習する	
	6	明視条件・採光				教科書予習する	
	7	採光による照度計算・採光計画				教科書予習する	
	8	人工照明・照度計算(光束法)				教科書予習する	
	9	色彩の表し方・表色法				教科書予習する	
	10	色彩の効果・色彩計画				教科書予習する	
	11	室内空気汚染物質と許容濃度				教科書予習する	
	12	各汚染物質に伴う必要換気量の計算				教科書予習する	
	13	自然換気の種類と風力換気の計算				教科書予習する	
	14	自然換気・温度差換気の計算・通風				教科書予習する	
	15	機械換気方式・換気計画				期末試験のため今までの振り返りをする。	
評価方法	期末試験結果と授業内での理解度確認テストの結果による。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				80%
	小テスト	○	○				10%
	宿題・レポート	○	○				10%
履修上の注意	出席率60%が単位付与条件とする。						

科目名	建築設備						
科目名(英)	Building Facilities						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	峯元 幹雄		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	総合メーカー建築技術担当。建材・都市開発・住宅部門に従事		
対象学科・学年	インテリアデザイン科 2年						
授業概要	建築に関する基礎的で包括的な専門知識として、また、建築環境・設備分野での技術者として必要な設備計画に関する基礎知識を修得する。						
授業形式	講義: ○	演習: -	実習: -	実技: -	※ 主たる方法: ○ その他: △		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				建築設備の役割・種類・構成を説明できる	
	○	○				空気調和方式の種類・特徴を説明できる	
	○	○				空気線図を読み解き、空調負荷について説明することができる	
	○	○				建築計画における省エネ手法を導き出せる	
	○	○				昇降機設備の種類と仕組みを理解する。	
テキスト・教材 参考図書	初学の建築講座 建築設備 第3版						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	建築設備概要(1・1 建築設備とは)				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	2	給排水衛生設備 2・1 給排水衛生設備とは				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	3	2・2 給水設備				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	4	2・3 給湯設備				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	5	2・5 排水・通気設備				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	6	2・6 排水処理設備				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	7	2・7 衛生器具設備 2・8 消火設備				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	8	空気調和設備 3・1 空気調和設備とは 3・2 空気調和と室内環境				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	9	3・3 空気の状態を知る 3・4 空調負荷の考え方				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	10	3・5 空気調和方式の種類 3・6 熱源・熱搬送設備と機器部材				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	11	3・7 換気・排煙設備				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	12	電気設備 4・1 電気設備とは				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	13	4・2 受変電・幹線設備				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	14	4・5 照明・コンセント設備 4・6 情報・通信設備搬送設備 5・1・1 エレベーター				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと	
	15	まとめ				本科目における学習内容を復習しておくこと	
評価方法	定期試験規定にもとづき、試験(筆記)を実施する。小テスト及び宿題レポートを数回実施する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	○				80%
	小テスト	○	◎				10%
	宿題・レポート	○	○				10%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	建築構造力学Ⅲ						
科目名(英)	Building Structural Mechanics Ⅲ						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	古賀 俊光		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	設計事務所にて 建築デザインに従事		
対象学科・学年	インテリアデザイン科 2年						
授業概要	建築構造物が荷重などに対してどのように変形し、構造物にどのような応力が発生するのかを計算できるように基礎知識の習得を目的とする。構造力学Ⅲでは、不静定構造を対象として、応力度・ひずみ度の算定、材料の性質、許容応力度設計の考え方、断面の性質などについて学び、不静定梁のたわみと断面力算定、たわみ角法および固定法による不静定骨組の断面力算定法などについて学ぶ。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				断面一次モーメント・図心を算出することができる。	
	○	○				断面二次モーメント・断面係数を算出することができる。	
	○	○				応力度を算出することが出来る。	
	○	○				座屈についての算出することが出来る。	
	○	○				梁の変形についての算出することが出来る。	
テキスト・教材 参考図書	学芸出版社 図説 やさしい構造力学						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	断面の性質(1)断面一次モーメント・図心					
	2	断面の性質(2)断面二次モーメント・断面係数			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	応力度(1)軸応力度			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	応力度(2)曲げ応力度			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	応力度(3)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	座屈・確認試験			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	梁の変形			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8	不静定構造とは、剛比の計算			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	9	固定モーメント法(1)材端モーメント・分割モーメント			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	10	確認試験(1)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	11	多層ラーメンの応力			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	12	弾性と塑性			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	13	全塑性モーメント、崩壊荷重			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	14	不静定ラーメンの崩壊と保有水平耐力			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	15	力学Ⅲの総まとめ			授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。※60点以上取得すること (2)授業の中で小テストを実施する。 (3)宿題を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				60%
	小テスト	◎	◎				20%
宿題・レポート	○	◎				20%	
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	建築施工Ⅱ						
科目名(英)	Building Construction Ⅱ						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	集路 正巳		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	総合建設会社にて、主に施工管理職として勤務		
対象学科・学年	インテリアデザイン科 2年						
授業概要	既に学んだ施工Ⅰに続き、建築工事を構成する各工種について、鉄骨工事以降の内容について概要を理解する。また、設備工事や建物完成後の業務に関しても理解を深める。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目 標	
	○	○				建築施工の目的と概略を説明できる	
	○	○				施工計画の概要と留意事項を説明できる	
	○	○				施工における工事の内容と留意事項を説明できる	
	○	○				施工における必要な検査事項と活用方法を工事の段階ごとに説明できる	
テキスト・教材 参考図書	初学者の建築講座 建築施工(第三版) 市ヶ谷出版社						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	鉄骨工事(概要、工場製作①)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	2	鉄骨工事(工場製作②)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	鉄骨工事(工場製作③)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	鉄骨工事(工場製作④、現場施工①)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	鉄骨工事(現場施工②)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	鉄骨工事(現場施工③)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	鉄骨工事のまとめ、小テスト①			授業内容に係る小テストを実施するので、復習しておくこと		
	8	屋根工事、防水・シーリング工事			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	9	仕上工事の考え方、左官工事、タイル工事			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	10	石工事、建具・ガラス工事、金属工事			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	11	内装工事			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	12	塗装・吹付工事、ユニット工事、断熱工事、外壁工事			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	13	設備工事(電気、給排水・衛生、空調)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	14	設備工事(昇降機設備工事)、完成時・完成後の管理			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
15	小テスト②、期末試験対策			授業内容に係る小テストを実施するので、復習しておくこと			
評価方法	(1) 定期試験(筆記)を実施する。(2) 小テスト(筆記)を2回実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				70%
	小テスト	○	◎				30%
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	建築法規 Ⅲ						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	徳田 美穂子		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	設計事務所に公共施設、共同住宅等の意匠設計に従事		
対象学科・学年	インテリアデザイン科 2年						
授業概要	建築物の設計、施工に必要な不可欠である建築基準法と関係法令について条文の主旨、内容の理解を図る						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				建築法規のそれぞれの条文を理解し、説明することができる。	
	○	○				建築法規の成り立ちを学び、順守すべき内容を説明することができる。	
	○	○				建築法規の規定事項を学び、関連法令と合わせた順守すべき事項を説明することができる。	
	○	○				実際の設計等を想定して、各自の判断で法令順守のプランニングができる。	
テキスト・教材 参考図書	・総合資格学院編 建築関係法令集 法令編						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	高さ制限1			事前連絡の該当範囲を事前に一読しておくこと。		
	2	高さ制限2			次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。		
	3	高さ制限3、日影			次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。		
	4	内装制限1			次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。		
	5	内装制限2			次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。		
	6	防火区画等①			次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。		
	7	防火区画等②			次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。		
	8	避難施設1(避難施設が必要な建築物)			次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。		
	9	避難施設2(避難階段と特別避難階段)			次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。		
	10	避難施設3			次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。		
	11	その他の法令1(建築士法)			次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。		
	12	その他の法令2(建築士法、建設業法)			次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。		
	13	その他の法令3(バリアフリー法、耐震改修法)			次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。		
	14	その他の法令4(品確法、長期優良住宅)			次週の該当範囲を事前に一読しておくこと。		
	15	その他の法令5(消防法)			定期試験に向けた学習を徹底しておくこと。		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する (2)授業の中で小テストを実施する 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				80%
小テスト	○	◎				20%	
履修上の注意	出席が10回に満たない場合は、定期試験の受験資格を与えない。						

科目名	AutoCAD I						
科目名(英)	AutoCAD practice I						
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	福光 春子		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	建材メーカー設計室にて、建築設計の担当。現在も実務に従事。		
対象学科・学年	インテリアデザイン科 2年						
授業概要	AutoCADの基本操作を学び、建築図面の作図方法を理解し、実務において効率的な設計や作図ができるようにする方法とコマンドの使い方を学習する。正しい図面の表記を学びながら作図を実践し、即戦力として活躍できるための技術を身につける。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				覚えたコマンドを効果的に活用して図面のトレースを行うことができる。	
	○	○				用紙サイズ、縮尺、寸法など製図のルールを理解して作図することができる。	
	○	○				木造住宅の各種図面(平面・断面・立面)を作図できる	
		○				自ら用途に応じてAutoCADの各種設定を行うことができる。	
○	○				レイアウト空間を使って印刷をすることができる。		
テキスト・教材 参考図書	建築製図基本の基本/学芸出版社						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1.2	【製図の基本を学ぶ】 AutoCADについて・製図の基礎知識・基本コマンド練習				練習問題を繰り返し復習	
	3.4	【製図の基本を学ぶ】 製図の基礎知識・基本コマンド練習				練習問題を繰り返し復習	
	5.6	【製図の基本を学ぶ】 製図の基礎知識・基本コマンド練習				練習問題を繰り返し復習	
	7.8	【製図の基本を学ぶ】 製図の基礎知識・基本コマンド練習				練習問題を繰り返し復習	
	9.10	【木造住宅意匠図】 各種設定・配置図兼平面図				授業内容の復習	
	11.12	【木造住宅意匠図】 配置図兼平面図				授業内容の復習	
	13.14	【木造住宅意匠図】 配置図兼平面図				授業内容の復習	
	15.16	【木造住宅意匠図】 屋根伏図・レイアウト空間設定・印刷				授業内容の復習 データ提出	
	17.18	【木造住宅意匠図】 断面図				授業内容の復習	
	19.20	【木造住宅意匠図】 断面図				授業内容の復習	
	21.22	【木造住宅意匠図】 立面図				授業内容の復習	
	23.24	【木造住宅意匠図】 立面図・レイアウト空間設定・印刷				授業内容の復習 データ提出	
	25.26	【木造住宅意匠図】 基礎伏図				授業内容の復習	
27.28	【木造住宅意匠図】 基礎伏図・床伏図				授業内容の復習		
29.30	【木造住宅意匠図】 床伏図・レイアウト空間設定・印刷				授業内容の復習 データ提出		
評価方法	(1)練習問題を実施する。(2)指定された課題を実施し、提出する。 (3)課題の完成度・正確性・丁寧さを評価する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	練習問題	○	○				10%
	課題提出状況		◎				30%
習熟度(スピードと正確さ)	○	◎				60%	
履修上の注意	出席が10回に満たない場合、提出課題が未提出の場合は履修単位を与えない。						

科目名	Photoshop・Illustrator III						
科目名(英)	Photoshop・Illustrator III						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	高山 裕明		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	デザイン設計事務所にて、製品・施設等の企画・デザインに従事		
対象学科・学年	インテリアデザイン科 2年						
授業概要	室内空間のスペシャリストとして活躍する専門性として、自分の考えを伝え、表現できること(プレゼンテーション能力)が挙げられる。IllustratorとPhotoshopの基本操作を踏まえ、建築パースやプレゼンボード作成し、より実務的なスキルを身につけ、卒業制作や各種コンペティションのレイアウトデザインのレベルを向上させる。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他		
	○	○		△			
	目標						
	○	○		△			
	○	○		△			
○	○		△				
○	○		△				
テキスト・教材 参考図書	『だれでもプレゼンシート+ポートフォリオをデザインできる本』樋口泰行(著) エクスナレッジ 2012年 『建築とインテリアのためのPhotoshop+Illustratorテクニック』長嶋 竜一(著) エクスナレッジ 2014年 『世界一わかりやすい Illustrator & Photoshop 操作とデザインの教科書』ピクセルハウス(著) 技術評論社 2018年						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	プレゼン資料のデザインポイント①レイアウト、色使い、文字組ほか			授業内で完了しなかった作業を完了させておくこと		
	2	プレゼン資料のデザインポイント②書体、引き出し線、ほか			授業内で完了しなかった作業を完了させておくこと		
	3	プレゼン資料のデザインポイント③図版の配置、表紙、ほか			授業内で完了しなかった作業を完了させておくこと		
	4	ポートフォリオ作品の加工とデータ管理①素材の分解と再構築			授業内で完了しなかった作業を完了させておくこと		
	5	ポートフォリオ作品の加工とデータ管理②データ管理の注意点			授業内で完了しなかった作業を完了させておくこと		
	6	施設建築のパース作成①テーマ課題の説明			授業内で完了しなかった作業を完了させておくこと		
	7	施設建築のパース作成②パース作成			授業内で完了しなかった作業を完了させておくこと		
	8	Illustrator を用いたレイアウトの基本デザイン 課題Aの説明			授業内で完了しなかった作業を完了させておくこと		
	9	Illustrator を用いたレイアウトの基本デザイン 課題A作成			授業内で完了しなかった作業を完了させておくこと		
	10	課題B: 有名建築をテーマとしたレイアウトボードのデザイン①概要説明			授業内で完了しなかった作業を完了させておくこと		
	11	課題B: 有名建築をテーマとしたレイアウトボードのデザイン②作業			授業内で完了しなかった作業を完了させておくこと		
	12	課題B: 有名建築をテーマとしたレイアウトボードのデザイン③作業			授業内で完了しなかった作業を完了させておくこと		
	13	課題C: 建築イメージボードの練習作品 ~基本レイアウト~			授業内で完了しなかった作業を完了させておくこと		
	14	課題C: 建築イメージボードの練習作品 ~配置写真加工~			授業内で完了しなかった作業を完了させておくこと		
15	課題C: 建築イメージボードの練習作品 ~タイトル・テキスト処理~			授業内で完了しなかった作業を完了させておくこと			
評価方法	(1)授業の中で小テストを2回実施する。(2)各項終了時に課題提出を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	平常課題	○	◎		○		50%
	レイアウト課題A	○	◎		○		10%
	レイアウト課題B	○	◎		○		20%
レイアウト課題C	○	◎		○		20%	
履修上の注意	授業中の指示を聞き落とさないこと。課題は指示された作業の正確さと、期限内提出を評価する。授業では一部の機能しか解説できないため、より使いこなしたい場合は教科書を活用すること。						

科目名	インテリア設計							
科目名(英)								
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	赤星 亜美			
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験				
対象学科・学年	インテリアデザイン科 2年							
授業概要	1年次に修得した建築やインテリアデザインの知識、技術、センスを活かし、平面計画から模型製作まで実施する。共通テーマからブレのないコンセプト、平面計画、インテリア配置を熟考した上、インテリアのデザインコンセプトを確定し、家具、什器類のスケッチ及び内装部分まで表現した模型を製作することで理解度を高める。							
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△			
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標		
		○				本学におけるこれまでの学習の成果が身についている。		
		○				コンセプトに沿った確かな計画を組み立てることができる		
		○				模型製作から、実務に通用するレベルの集中力、洞察力、表現力を身に付けることが出来る		
テキスト・教材 参考図書	ステレンボード、プラ板、ボンド、バルサ材等 ※別紙参照							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示		
	1	2	マンションリフォーム計画				締切を確認し計画的に進めてください。	
	3	4	マンションリフォーム計画				締切を確認し計画的に進めてください。	
	5	6	マンションリフォーム計画				締切を確認し計画的に進めてください。	
	7	8	模型製作				締切を確認し計画的に進めてください。	
	9	10	模型製作				締切を確認し計画的に進めてください。	
	11	12	模型製作				締切を確認し計画的に進めてください。	
	13	14	模型製作				締切を確認し計画的に進めてください。	
	15	16	模型製作				締切を確認し計画的に進めてください。	
	17	18	模型製作				締切を確認し計画的に進めてください。	
	19	20	模型製作				締切を確認し計画的に進めてください。	
	21	22	模型製作				締切を確認し計画的に進めてください。	
	23	24	模型製作				締切を確認し計画的に進めてください。	
	25	26	模型製作				締切を確認し計画的に進めてください。	
27	28	模型製作				締切を確認し計画的に進めてください。		
29	30	模型製作・提出				締切を確認し計画的に進めてください。		
評価方法	(1)出課題作品の完成度 (2)段階的な作品の提出状況 (3)プレゼンテーションの出来栄によって評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
	課題作品		◎				80%	
提出状況		◎				20%		
履修上の注意	60%出席を単位付与条件とする							

科目名	就職実務ⅡA						
科目名(英)	Employment practicesⅡA						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	各クラス担任		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	インテリアデザイン科 2年						
授業概要	就職活動に必要な基礎知識を備えた人材の育成 就職活動における作品集作成や履歴書記入方法など、社会人になる上でのスキルを身につける。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				就職活動における企業研究を行うことができる	
	○	○				自己分析を行うことができる	
	○	○				作品集を作成し就職活動ができる	
テキスト・教材 参考図書	就職活動ガイドブック						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	履歴書の書き方					
	2	受験企業の研究し求人を探しリストアップ					
	3	自己分析作成と作品集ブラッシュアップ					
	4	志望理由チェックと作品集ブラッシュアップ					
	5	就職活動スケジュールを制作					
	6	就職活動状況の共有					
	7	ポートフォリオのブラッシュアップ					
	8	対象企業を意識した面接練習					
	9	対象企業を意識した面接練習(グループディスカッション)					
	10	受験企業の研究し求人を探しリストアップ					
	11	自己分析や志望理由チェック					
	12	就職活動状況の共有					
	13	求人情報の集め方や、管理の仕方					
	14	対象企業を意識した面接練習					
15	就職活動スケジュールを制作						
評価方法	(1)受講態度・意欲 (2)課題の提出 以上の内容を総合的に判断し R評価(可、不可)で判断する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	受講態度・意欲	○	○				30%
	課題の提出	○	○				70%
履修上の注意	60%出席を単位付与条件とする						

科目名	キャリア教育Ⅲ(選択)						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	各クラス担任		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	インテリアデザイン科 2年						
授業概要	前期で取り組んだ内容をより精査・修練し、就職内定にさらに近づける実力をつけていく						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
						○ 企業の視線を意識しつつ、自分の志望動機をしっかりと履歴書に書くことができる	
						○ 意識して企業研究が続けられている	
						○ 面接の基本的マナーを問題なく実施できている	
		○				○ 基本的なビジネスメールのやりとりが問題なくできる	
		○				○ 基本的なビジネス文書を作成することができる	
テキスト・教材 参考図書	就職ガイドブック						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	履歴書の書き方					
	2	履歴書の記入 下書き・添削 実際に記入してみよう					
	3	履歴書の記入 下書き・添削 「学生時代に力を入れたこと」の書き方					
	4	「志望動機」の書き方 等					
	5 ～ 12	求職票受付面接／履歴書清書 質問に対する準備をしよう					
	13	ビジネスメールについて 企業の方とのメールのやりとりについて					
	14	内定お礼状の書き方 ビジネス文書の復習 言葉遣いについて					
	15	お礼状を書いてみよう 実際にお礼状を書いてみよう					
評価方法	(1)受講態度・意欲 (3)課題の提出 以上の内容を総合的に判断し R評価(可、不可)で判断する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	受講態度・意欲	○	○				30%
	課題の提出	○	○				70%
履修上の注意	60%出席を単位付与条件とする						

科目名	建築士対策(製図 I)						
科目名(英)	ARCHITECTURAL DESIGN DRAWING						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	森行 美枝		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	インテリアデザイン科 2年						
授業概要	設計製図試験に対応した基礎理論と課題図面の解説 また試験に対応した予想問題の演習と解説						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	△	○				方眼紙を読む力があり、㎡計算や畳数を瞬時に計算できる。	
	○	○				木造建築の課題の特徴、出題傾向を説明することができる。	
	○	○				各構造の矩計図、断面図の理解し、各部の名称を答えることができる。	
	○					2級建築士の2次試験問題を限られた時間で描ける	
テキスト・教材 参考図書	2020 2級建築士試験 設計製図テキスト 総合資格学院						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	設計製図試験の概要				テキスト予習	
	2	製図を始める前に 法規				テキスト予習	
	3	木造専用住宅 ケーススタディ 課題文読み取り、エスキス進め方				テキスト予習	
	4	課題① 方眼紙を使用した課題模写				時間外でも宿題として完成させる	
	5	課題① 方眼紙を使用した課題模写				終了が早い場合は課題2実施	
	6	木造併用住宅 ケーススタディ				テキスト予習	
	7	課題① 方眼紙を使用した課題模写				テキスト予習	
	8	課題① 方眼紙を使用した課題模写				時間外でも宿題として完成させる	
	9	要求図面の書き方					
	10	過去問課題① 読み取り エスキス				図面のチェックと修正	
	11	過去問課題①				エスキスのチェックと修正	
	12	過去問課題①				図面のチェックと修正	
	13	木造課題 模擬試験①				図面のチェックと修正	
	14	木造課題 模擬試験①				自己チェックリストにより確認させる	
15	木造課題 模擬試験①				自己チェックリストにより確認させる 質疑応答		
評価方法	(1)課題の提出 (2)課題の発表 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	練習課題	○	◎				30%
	模擬試験	○	◎				70%
履修上の注意	出席率60%以上単位付与条件とする。						

科目名	検定対策ゼミⅡA(選択)インテリアコーディネーター				
科目名(英)	Architectural planning and designⅢ				
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	赤星 亜美
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	住宅メーカー、インテリア系企業にて 商品企画開発者として勤務
対象学科・学年	インテリアデザイン科 2年				
授業概要	インテリア産業協会主催インテリアコーディネーター検定対策の学習を通して、建築概要とインテリアコーディネーター知識のより専門的な知識の習得を図る				
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他
	○	○			
	○	○			
テキスト・教材 参考図書	テキスト:インテリアコーディネーター合格教本(上・下) インテリアコーディネーター問題集(上・下) その他				
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示
	1	ガイダンス/資格概要			学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること
	2	1章 住宅と社会/2章 インテリア販売			学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること
	3	9章 構造・構法			学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること
	4	3章 インテリアの歴史			学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること
	5	10章 材料			学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること
	6	3章 インテリアの歴史			正答できなかった問題は復習、または担当教員に質問するなどして不明点を明らかにしておくこと
	7	10章 材料			学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること
	8	4章 インテリア計画			学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること
	9	11章 環境工学			学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること
	10	5章 色彩と造形			学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること
	11	11章 環境工学/12章 住宅設備			学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること
	12	6章 家具			学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること
	13	12章 住宅設備/13章 照明			学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること
	14	6章 家具			学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること
	15	13章 照明/14章 表現技法			学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること
	16	7章 ウィンドウトリートメント			正答できなかった問題は復習、または担当教員に質問するなどして不明点を明らかにしておくこと
	17	15章 建築関連法規			学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること
	18	8章 各種エレメント			学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること
	19	16章 消費者関連法規			学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること
	20	模擬試験			学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること
	21	模擬試験			学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること
	22	模擬試験			正答できなかった問題は復習、または担当教員に質問するなどして不明点を明らかにしておくこと
	23	模擬試験			学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること
24	模擬試験			学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること	

	25	模擬試験	学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること				
	26	模擬試験	学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること				
	27	模擬試験	学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること				
	28	模擬試験	正答できなかった問題は復習、または担当教員に質問するなどして不明点を明らかにしておくこと				
	29	模擬試験	正答できなかった問題は復習、または担当教員に質問するなどして不明点を明らかにしておくこと				
	30	模擬試験	正答できなかった問題は復習、または担当教員に質問するなどして不明点を明らかにしておくこと				
評価方法	(1)小テストを各章が修了した次の授業で実施する。(2)20回目から宿題あり。(3)全国模試を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	全国模試	○					50%
	小テスト	○					25%
	宿題	○					25%
履修上の注意							

科目名	検定対策ゼミⅡA(選択)宅地建物取引士試験					
科目名(英)						
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	森行 美枝	
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	建築設計事務所にて設計・監理業務担当	
対象学科・学年	インテリアデザイン科 2年					
授業概要	宅建試験の合格も視野に、試験の問題演習を通して、建築物を取引する不動産権利取引に関する知識を修得する。それにより、建築物の財産的価値の重要性を認識できる視点を養う。					
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標
	○	○				宅建業の業務内容と役割について宅建業法の条文規定を用いて説明できる
	○	○				宅地建物取引士の実務における重要事項を条文規定を用いて説明できる
	○	○				民法の権利義務関係について、小テスト・模擬テストで平均正答率60%以上を出すことができる
	○	○				不動産取引手続きに関する問題について、小テスト・模擬テストで平均正答率60%を出すことができる
				○		全国模擬試験で全国平均以上の点数が取れる
テキスト・教材 参考図書	出る順 宅建士 ウォーク問過去問題集2018年版①～③【東京リーガルマインド】					
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示	
	1	用語の定義／免許制度／宅建士制度			学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること	
	2	営業保証金／保証協会／媒介契約等の規制			学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること	
	3	重要事項の説明／37条書面			学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること	
	4	8種制限／業務上の諸規制／監督・罰則			学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること	
	5	報酬／住宅瑕疵担保履行法			学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること	
	6	単元テスト			正答できなかった問題は復習、または担当教員に質問するなどして不明点を明らかにしておくこと	
	7	制限行為能力者／意思表示／代理			学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること	
	8	時効／不動産物権変動／物権関係			学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること	
	9	抵当権／保証・連帯保証／連帯債務			学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること	
	10	債権譲渡／債務不履行と解除／弁済・相殺／売買			学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること	
	11	賃貸借／委任・請負／不法行為			学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること	
	12	相続			学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること	
	13	借地借家法			学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること	
	14	借地借家法			学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること	
	15	区分所有法／不動産登記法			学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること	
	16	単元テスト			正答できなかった問題は復習、または担当教員に質問するなどして不明点を明らかにしておくこと	
	17	都市計画／開発許可制度			学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること	
	18	建築基準法(単体規定・集団規定)／宅地造成等規制法			学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること	
	19	土地区画整理法／農地法			学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること	
	20	国土利用計画法／諸法例			学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること	
21	国土利用計画法／諸法例			学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること		

	22	単元テスト	正答できなかった問題は復習、または担当教員に質問するなどして不明点を明らかにしておくこと				
	23	不動産取得税／固定資産税	学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること				
	24	不動産譲渡所得／登録免許税／印紙税／贈与税	学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること				
	25	地価公示法／不動産鑑定評価基準	学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること				
	26	住宅金融支援機構／景品表示法	学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること				
	27	土地／建物／統計	学習した箇所は必ず復習し、不明点は担当教員に質問して理解に努めること				
	28	単元テスト	正答できなかった問題は復習、または担当教員に質問するなどして不明点を明らかにしておくこと				
	29	全国模擬試験①	正答できなかった問題は復習、または担当教員に質問するなどして不明点を明らかにしておくこと				
	30	全国模擬試験②	正答できなかった問題は復習、または担当教員に質問するなどして不明点を明らかにしておくこと				
評価方法	(1)単元テスト(2)模擬試験の点数で評価する 成績評価基準は、平均正答率 S(90%以上)・A(80%以上)・B(70%以上)・C(60%以上)・D(59%以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	単元テスト	○	○				50%
	模擬試験	○	○				50%
履修上の注意	難しい法律用語が多々出てくるので、用語の意味をその都度細かく確認すること						

科目名	検定対策ゼミⅡA(選択)2級建築施工管理技士資格試験						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	集路 正巳		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	総合建設会社にて、主に施工管理職として勤務		
対象学科・学年	インテリアデザイン科 2年						
授業概要	2施工_学科試験合格を視野に、問題読解に必要な知識をポイントを絞り身につけていきます。また、理解度確認のため小テスト、模擬テストを複数回、実施し実力をつけていきます。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				建築施工に関する専門用語の意味を正しく説明できる。	
	○	○				小テストの平均正解率60%以上を獲得できる。	
	○	○				模擬テストの平均正解率60%以上を獲得できる。	
テキスト・教材 参考図書	①. 2級建築施工管理技士要点テキスト(2021年度版)市ヶ谷出版社 ②. 2級建築施工管理技士即戦問題集(2021年度版)市ヶ谷出版社						
授業計画	回数	授業項目・内容			回数	授業項目・内容	
	1	1章 建築学 01 環境工学			16	16 安全管理 / 小テスト④	
	2	02 構造力学			17	5章 建築施工 17 地盤調査	
	3	03 一般構造			18	18 仮設工事	
	4	04 建築材料 / 小テスト①			19	19 地業	
	5	2章 共通 05 舗装・植栽工事			20	20 土工事	
	6	06 建築設備			21	21 鉄筋コンクリート工事	
	7	07 設計図書・測量 / 小テスト②			22	22 特殊コンクリート工事 / 小テスト⑤	
	8	3章 建築法規 08 建築基準法			23	23 鉄骨工事	
	9	09 建設業法			24	24 木工事	
	10	10 労働基準法			25	25 防水工事、石工事	
	11	11 労働安全衛生法			26	26 タイル工事、屋根工事	
	12	12 環境保全関係法、その他 / 小テスト③			27	27 金属工事、左官工事	
	13	4章 施工管理法 13 施工計画			28	28 建具工事、塗装工事	
	14	14 工程管理			29	29 内外装工事、建設機械 / 小テスト⑥	
	15	15 品質管理			30	総まとめ / 模擬テスト	
授業外学修指示							
・当日の授業範囲に係るテキストの該当部分を事前に読んでおく事。特に専門用語を理解しておく。							
評価方法	(1) 模擬テスト(筆記)を実施する。(2) 小テスト(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	模擬テスト	○	◎				70%
小テスト	○	◎				30%	
履修上の注意	出席数が全体の2/3に満たない場合には、単位を与えない。またゼミ受講に対する意欲が感じられないと判断した場合は、ゼミへの出席停止を指示し単位を与えない事がある。						

科目名	専攻ゼミ I (インテリア)						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	赤星 亜美		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	実務家教員 担当科目			
対象学科・学年	インテリアデザイン科 2年						
授業概要	「家具」はインテリア空間を構成する重要不可欠な要素であり、当授業では建築化された家具、移動可能な家具及び建具まで含めてその構造、技術に関するハードウェア知識及び設計技術の習得を行う。 インテリアコーディネーター資格試験、特に二次試験時において家具の的確な配置、寸法設定、立断面の図面が求められており、その対策も同時に行う。						
授業形式	講義: ○	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				箱物家具の基本寸法がわかり、三面図が描ける。	
	○	○				家具の用途、様式、構造を踏まえた材料、サイズ、金物の選定が出来る。	
	○	○				家具の用途に応じた素材、仕上の選定が出来る。	
	○	○				家具、建具、に関する最新技術、商品に対する知識の習得をしている。	
	○	○				人間工学の基礎知識のうち、作業域、使い勝手にかかわる知識を習得して、室内設計に反映することが出来る。	
テキスト・教材 参考図書	参考図書:「インテリアの計画と設計」彰国社、「名作椅子の由来辞典」誠文堂新光社、「世界で一番美しい建築デザインの教科書」イクスナレッジ、「木製建具デザイン図鑑」(株)建築知識、「素材建材ハンドブック」建築資料研究社						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	ガイダンス					
	2	家具概論Ⅰ:箱物家具(furniture)と脚物家具(mobel)の分類				授業で扱うテーマを参照し、予習したことをノートにまとめておくこと(2時間)	
	3	家具概論Ⅱ:施工性による分類(造り付け、据置、ノックダウン等)				授業内容を復習したことをノートにまとめておくこと(2時間)	
	4	人間工学概論:エルゴノミクス、キネシオロジー、環境生理学				授業内容を復習したことをノートにまとめておくこと(2時間)	
	5	箱物家具の部材構成、設計寸法(モジュール、材料、金物)				授業で扱うテーマを参照し、予習したことをノートにまとめておくこと(2時間)	
	6	家具金物メーカー見学				レポート提出	
	7	納まり、材料特性、加工技術、仕上技術				授業内容を復習したことをノートにまとめておくこと(2時間)	
	8	家具メーカー製造工場見学				レポート提出	
	9	家具製作実習(ノックダウン型の扉付きボックス組立)				計画通りの進捗が認められない場合、宿題とし、次回に備えること。	
	10	家具製図基本演習(図面の描き方)				計画通りの進捗が認められない場合、宿題とし、次回に備えること。	
	11	箱物家具製図実習(導入・過去問事例・エスキス)				計画通りの進捗が認められない場合、宿題とし、次回に備えること。	
	12	箱物家具製図実習(平面図)				計画通りの進捗が認められない場合、宿題とし、次回に備えること。	
	13	箱物家具製図実習(家具三面図・断面詳細図)				計画通りの進捗が認められない場合、宿題とし、次回に備えること。	
	14	箱物家具製図実習(アイソメ・パース・着色)				計画通りの進捗が認められない場合、宿題とし、次回に備えること。	
	15	箱物家具製図実習(プレゼンテーション・発表)				計画通りの進捗が認められない場合単位取得不可の可能性がある。	
評価方法	定期試験は実施しない。 (1)宿題・レポートを数回実施する。(2)演習及び実習以上、下記の観点・割合で評価する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	宿題・レポート	○	○				20%
	演習作品	○	○				30%
	実習作品	○	○				50%
履修上の注意	必要出席率は成績評価に関する規定(履修認定)第9条の通りとする。 宿題・レポートを合わせて2つ以上未提出、または実習作品を未提出の者は不合格とする。						

科目名	数学ゼミⅡA(選択)						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	15時間	担当者	吉田 麻美		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	建築工学科・建築CAD科・インテリアデザイン科 2年						
授業概要	建築の各学科において必要とされる、基礎的な数学スキルの復習と習熟を目指す						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				1次関数の値の変化をグラフに表すことができる	
	○	○				1次関数と方程式の問題が解ける	
	○	○				1次関数の応用問題が解ける	
	○	○				図形の性質と合同性質を用いた問題が解ける	
	○	○				証明問題を解くことができる	
テキスト・教材 参考図書	オリジナル演習プリント						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	【演習問題】 1次関数 値の変化、変化の割合				解答出来なかった問題は必ず復習・解答の上再提出すること。 また、理解できなかった問題は質問事項を記入して担当教員に提出すること。	
	2	【演習問題】 1次関数 1次関数のグラフ問題					
	3	【演習問題】 1次関数 1次関数のグラフのかき方・式の求め方					
	4	【演習問題】 1次関数 1次関数と方程式(連立方程式)					
	5	【演習問題】 1次関数の利用 文章問題 まとめ					
	6	【演習問題】 図形の性質と合同 直線と角、三角形と角、多角形の角					
	7	【演習問題】 図形の性質と合同 三角形の合同					
	8	【演習問題】 図形の性質と合同 証明問題					
評価方法	(1)受講態度・意欲 (2)課題の提出 以上の内容を総合的に判断し R評価(可、不可)で判断する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	受講態度・意欲	○	○				30%
	課題の提出	○	○				70%
履修上の注意	60%出席を単位付与条件とする						

科目名	BIM専攻ⅡA(選択)						
科目名(英)	Building Information Modeling ⅡA						
単位数	1単位	時間数	15時間	担当者	道脇 力		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	建築工学科・建築CAD科・インテリアデザイン科・建築学科(昼) 2年						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ARCHICADのチームワーク操作の習得。 ・課題の制作を通じた実践的な表現技術の習得。 						
授業形式	講義:	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○				チームワーク機能を効果的に活用してモデリングを行うことができる。	
	○	○				課題に必要な情報収集を行うことができる。	
		○	○			ゾーンツールを使ってボリウムスタディができる。	
テキスト・教材 参考図書	木造住宅入力ガイド(グラフィソフト提供トレーニングドキュメント)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	チームワークの概要、モデル入力「木造軸組①」			テキストを見て予習を行うこと		
	2	モデル入力「木造軸組②」データチェック			前回の復習を行うこと		
	3	課題:複合ビル「情報収集」			情報、資料収集を行うこと		
	4	課題:複合ビル「エスキス①」			情報、資料収集を行うこと		
	5	課題:複合ビル「エスキス②」			情報、資料収集を行うこと		
	6	課題:複合ビル「エスキス③」			情報、資料収集を行うこと		
	7	課題:複合ビル「制作①」			情報、資料収集を行うこと		
	8	課題:複合ビル「制作②」			情報、資料収集を行うこと		
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)発表・作品 (2)課題の提出 以上の内容を総合的に判断し R評価(可、不可)で判断する。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	発表・作品	○	◎				50%
	課題提出		◎	○			50%
履修上の注意	出席が60%に満たない場合は、単位を認めない。						